

1 第6次総合計画の策定

昭和45年の市制施行以来、貫して人口が増え続ける中でまちづくりを進めてきましたが、平成21年の8万6911人をピークに、令和6年度末には8万2797人まで減少しています。人口減少が避けられない中、少子高齢化の急速な進行、社会保障費の増大など、本市を取り巻く環境の変化に対応しながら、まちづくりを将来に向かって着実に進めていくため、2年に第6次総合計画を策定しました。

計画は、まちづくりに関わる全ての人にとって、共にまちを創る行動指針となるもので、市民が幸せに暮らす将来のまちの姿を描き、その実現に向けた取り組みの方向性を共有するものです。

本市は、これまで市民主役のまちづくりを進めてきました。社会環境が変化したとしても、まちづくりの主役は市民であることに変わりはなく、人と人とのつながりを強め、市民の暮らしの質を高めるため、「ひと」を中心としたまちづくりを進めています。



平成8年に人口8万人を達成

2 あたらしく、知多らしく。梅香るわたしたちの緑園都市

まちづくりに関わる全ての人が、市民が幸せに暮らす「理想の未来」を共有し、同じ目標に向かって行動するために、将来像を定めています。それが、「あたらしく、知多らしく。梅香るわたしたちの緑園都市」です。

本市には、まちづくりの強みが多くあり、それは「知多市らしさ」でもあります。その中でも、盛んな「ミニユーニティ活動」、さまざまな課題に取り組むNPO活動、各主体の連携による市民協働の取り組みは、市民主役のまちづくりには欠かすことができないものです。また、都市からも近く、自然に恵まれゆつたりと暮らすことができる環境や市民の温かい人柄などは、未来につなげていきたい大切な「知多市らしさ」です。

佐布里池周辺の県内一を誇る梅林は、本市の最も大きな魅力の一つであるとともに、梅は市の花です。梅の花の香りが漂う雰囲気を加え、「知多市らしさ」を表現しています。

市制施行以来、産業との調和を図りながら、市民・地域・事業者の協力のもとで築き上げてきた「緑園都市」は、自然の豊かさと都市の快適さが共存し、本市の大きな魅力となっています。地域愛を育み、知多市民であることに誇りを持ち、「自分たちの願う未来を自分たちで創っていく」という考え方のもと、共にまちを創っていくという姿勢を表すため「わたくしたちの」と加え、本市が目指す将来像としています。



佐布里梅の花



花いっぱい運動の取り組みの一環で、配られた花苗を植える園児たち



外国籍市民と多文化共生について考える円卓会議

公募によって集まった小中学生が運営し、
まちの仕組みを楽しみながら学ぶ「こどものまちinちた」

計画では、市民が幸せに暮らす理想の未来を実現するため、「夢や希望に向かってチャレンジする」「地域全体で子どもを大切に育てる」「人やまちとのつながりを大切にする」「多様性を認め合う」の4つの考え方を、まちづくりの基本的な考え方としています。また、「ひとづくり」「あんしんづくり」「にぎわいづくり」を3つの基本目標として掲げ、重点的に取り組みを進めています。

3

まちづくりの基本的な考え方

4 基本目標1 ひとづくり

未来を担う子どもを地域全体で支えるとともに、子どもを健やかに育てることができる環境や切れ目のない支援を整え、子育て世帯に選ばれるまちを目指します。次代の担い手を育むため、確かな学力と豊かな人間性・社会性を育む質の高い教育を提供します。

まちづくりの主役は「ひと」です。一人ひとりがまちづくりを自分のこととして捉え、持てる力を出し合い、活躍できるよう主体的な活動を支援するとともに、各主体の連携、協働を推進します。生涯を通じて、文化芸術に親しむ機会の充実、学びを楽しむ環境づくりを進めます。

性別や年齢、国籍など多様性を認め合い、誰もが自分らしく暮らすことができる地域社会を形成します。ひとづくりを通じて、地域への関心を高め、地域のために行動する市民を増やすことで地域への愛着が育まれ、さらなる活動が生まれるなど、まちづくりの好循環を導きます。



科学の不思議やものづくりの楽しさを学ぶ
少年少女発明クラブ



教育用タブレット端末を使ったICT教育



知多市国際ネットワーク協議会による、日本人市民を対象にしたペルー料理教室を開催

基本目標2 あんしんづくり

人と人とのつながり、地域で支え合うことにより、暮らしの安心感を高めるとともに、誰一人社会から孤立せず、適切な支援を受けられる体制を整えます。主に高齢者の暮らしを支える移動手段を確保するため、新たな交通手段の導入を検討し、利便性の高いネットワークを構築します。大規模な自然災害に備え、防災力を高めるとともに、地域の防犯力を高め、安全で安心に暮らせるまちをつくります。

心身ともに健康で安心して暮らすことができるよう、自分に合った健康づくり、スポーツに取り組める環境や機会を充実させ、健康寿命を延ばします。災害時だけでなく、日々の暮らしにおいても、人やまちのつながりを大切にし、自助、互助、共助、公助による連携を強化し、市民協働により安心して暮らせるまちづくりを進めます。



異なる世代が共に食事を楽しみ、交流を育むこども食堂



フットボールセンター知多で芝の植え付け



コミュニティ単位で毎年地区を変えて行う市総合防災訓練

6 基本目標③ にぎわいづくり

人が集い、交流する場をつくるとともに、豊かな自然を活かした快適な住環境を整備し、定住人口の増加を目指し、活力とにぎわいあふれるまちづくりを進めます。

地域経済を活性化し、にぎわいを創出するため、企業誘致や商工業の支援観光振興などを進めます。また、暮らし方や働き方が多様化する中で、それぞれの希望に応じて、いきいきと働くことができる場をつくり、新たなビジネスへのチャレンジを支援します。

長年築いてきた緑園都市に磨きをかけ快適な住環境を整備すること、地域に新たな仕事をつくること、買物や食事の利便性を高めること、また、イベントや観光などの楽しみを創出することなどを連携して進めます。こうして、暮らしの満足度を高め、これからも知多市で暮らし続けたい、知多市で暮らしてみたい感じることができるまちづくりを進めます。



夏の夜空を彩る新舞子ビーチフェスティバルの花火大会



本市が誇る優良企業が集結する企業展「第7回知多市DEはたらく」と、子どもたちがさまざまな仕事を体験できるイベント「チッタニア」がコラボ開催

未来へ向けて

本市では、平成30年に朝倉駅周辺整備基本構想を策定し、市の玄関口である名鉄朝倉駅周辺をにぎわいの交流拠点とするため、令和9年度に開庁予定の市役所新庁舎の建設やホテルの誘致などを行っています。また、知多信濃川東部地区や知多新南地区で行われている土地区画整理事業では、住宅地や公園の整備が進み、スーパー・マーケットやホームセンターなどがオープンするなど、住みやすいまちづくりが進んでいます。

本市は、名古屋市や中部国際空港へのアクセスにも優れ、工業団地への企業進出も進み、現在整備中の西知多道路により、物流や産業の拠点としてさらなる発展が期待されています。また、愛知県による水素の製造・運搬・貯蔵・利用のサプライチェーン構築を目指した低炭素水素モデルタウン事業に協力しています。臨海部では大規模な水素製造装置が操業するなど、水素関連事業は脱炭素社会に向けた新たな産業として期待されています。

交通の利便性や豊かな自然環境に恵まれた本市は、持続可能で魅力あるまちづくりを進め、人と産業がつながり、暮らしやすく活力ある未来へ向けて、着実に歩みを進めています。



市役所新庁舎建設工事の様子



西知多道路に設置される金沢インターチェンジ(仮称)



令和9年度開庁予定の市役所新庁舎のイメージパース